



NEWS No.2 LETTER


仕事や暮らしを自分でデザインするための新しい働き方
テレワークにチャレンジしたいひと、テレワークを実践しているひとのための施設が
テレワークセンター徳島です。

テレワーク最新トピックス

生産性1.6倍 働き方改革「時間より場所」

日本経済新聞/平成29年11月20日
(日本経済新聞エコノフォーカスより)

政府は生産性革命を掲げ、設備投資や人材投資を促す。だが工夫次第で生産性はぐっと高まるかもしれない。自宅や外出先など、勤務先以外で働く「テレワーク」を導入した企業の労働生産性は導入していない企業の1.6倍という調査もある。働き方改革で労働時間の短縮を進める企業は多いが、働く場所も注目されてきた。



「きょうは最高気温が35度超になるのでテレワークを推奨します」
上記のトピックスの次に続く文章です。
こんな働き方が企業から推奨されたら生産性があるかも、という
想像ができますね。社員の働きやすさが生産性の向上となり企業に
還元されているという記事が増えています。
以前と比べて、テレワークの情報は毎日ニュースになっています。

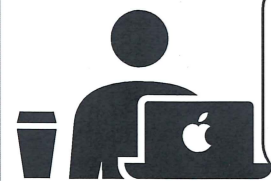
2050年 オフィスが消える

日本経済新聞/平成29年11月16日

働き方は技術に伴って変化してきた。日本の「テレワーク」は1980年代、都市部の地価高騰などで登場した郊外サテライトオフィスに始まる。以降、インターネット普及で広がるが、導入率は1割強。会社で働く意識は依然強い。

ただ、2027年に予定されるJR東海のリニア中央新幹線の出現で、働く場と住む場の考え方が変わるかもしれない。延伸後の37年ごろには品川-大阪間は最短67分。普段は大阪に住んでリモートワークをし、必要な時だけ東京に本社する「リニア都民」誕生の可能性も。

某調査によると現在でも「電話とメールがあれば1日程度の出社でも支障がない」と考える人が半数を占めています。距離が縮まり、居場所に関わらず仕事ができるようになれば各地に求人募集が出来るのもテレワークのひとつのメリットです。



発行/テレワークセンター徳島 担当/安宅
ニューズレターに関するお問い合わせ 090-3187-9845

業務削減・在宅勤務促進といわれても… 部課長板挟み「会社の支援不十分」9割

毎日新聞/平成29年11月6日

働き方改革に対する会社のサポートが不十分だと部課長クラスの91・8%が感じている。

働き方の見直しを啓発しているNPO法人「ファザリング・ジャパン」(東京)の調査でこんな結果が出た。69・5%が部下の管理でストレスを抱えていることも判明。中間管理職が働き方改革の推進を任せられ、苦悩している姿が浮かんだ。

調査は8月にインターネットで実施。従業員50人以上の企業の部課長クラス約1000人が回答した。

企業の65%近くが年次有給休暇の取得促進と残業時間の削減に取り組んでいる。一方、中間管理職の立場では推進が難しい項目(複数回答)に、38・4%が「業務の削減」、26・9%がテレワークや在宅勤務といった「柔軟な働き方のための制度利用促進」を挙げた。

働き方改革はマネジメント改革だとも言われます。休みをとることも業務の削減も各人の意識によるところが多く、本人任せではなかなか改善が進みません。そんなときの第一歩として、部下の「仕事の計画と重要度の認識」をチェックしてみませんか。重要度・緊急度の判断が違っていると、必要以上に時間を費やしたり、的外れの動きになることがよくあります。いまは便利なICTツールがいろいろありますので、「仕事の見える化」も手軽にできますよ。



会社のサポートが「十分にある」が8・1%にとどまるのに対し「あるが足りていない」は49・1%、「ほとんどない」は34・3%、「全くない」は8・4%だった。

必要とする会社のサポート(複数回答)は「業務の削減」が51・5%と突出している。「管理職へのマネジメント研修」(36・4%)や「会社全体の方針の明文化」(30・6%)も多かった。

ファザリング・ジャパンには「業務が減らない」「部下は帰すが自分が残業している」といった声が寄せられている。安藤哲也代表理事は「企業は働き方改革の号令を掛けるだけで現場に丸投げするのではなく、トップが経営方針として打ち出し、具体的に適切なサポートをすることが大事だ」と指摘している。

注目記事

働き方改革は先手必勝。在宅勤務導入から8年経った製薬会社の今

Yahooニュース/平成29年8月18日

政府の調査によると、「勤務先にテレワーク制度等がある」という会社員は14.2% (国土交通省「平成28年度テレワーク人口実態調査」より)。国は7月24日を「テレワーク・デイ」とし、企業に一斉テレワークの実施を呼びかけるなどしているが、まだまだ様子見という会社も多いだろう。しかし、かなり早い時期から本格的にテレワークに取り組み、今では無くてはならない制度になった会社もある。

2009年にいち早く在宅勤務制度をスタート

外資系の製薬企業であるMSD株式会社が在宅勤務制度を導入したのは、2009年。特別な理由がなくとも誰もが週1日は在宅勤務が可能、何か事情がある場合は週2日～毎日の在宅勤務も許可してきた。そして昨年4月、全社員に対して回数制限を撤廃し、今では上長の承認の下、自身の都合に合わせて在宅勤務をする社員が月に500名以上いる(在宅勤務活用部署の社員数は、約1000名)。

「在宅勤務に特別な理由はいらない」を徹底

2009年当時から、いずれは在宅勤務を始めとする柔軟な働き方が必要になることは見えていた。いずれやらなければならぬなら、他社よりも早く始めて上手になっておこう――。週1日までという制限はあったものの、始めた当初から「理由は問わない」としていたのも先見の明がある。

MDS株式会社が特に取り組んだことは在宅勤務実施の条件を問わないことでした。在宅勤務が出来る人と出来ない人の間に溝を作らないことは大切です。会社全体で取り組むときに段階を踏んだことも効果的でした。MDS株式会社が在宅勤務始めて7年かかって真の在宅勤務が浸透したと記事の続きに書かれています。時間と手間もかかるものですが、メリットと意義が全社員に浸透したということだと思います。

新しいことを始めるときには経験が必要です。いきなり在宅勤務が出来る人もいるかもしれませんが、はじめはやりやすい範囲から拡大して継続していくことが必要です。過去に週休二日制を実施した時も週6働くことから週5勤務になることで生産性の向上が必要でしたが、テレワークも考えかたは同じです。テレワークを通じてほしいことは働き方を改善して生産性を向上させることです。テレワークは目的ではなく手段なのです。



平成29年度版テレワーク川柳をご紹介します

去年の作品を一部ご紹介いたします。受賞作はまたテレワークニュースでお伝えします。今年はどうなる川柳がでてくるのか楽しみです。次回公募にもぜひご参加ください!

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. グランプリ賞 | 3. 入賞【働き方】 |
| ★ 埋もれてた才能ワクワクテレワーク | ★ 紙ってる働き方にITを |
| 2. 準グランプリ賞 | ★ 場所ではなく仕事にこだわるテレワーク |
| ★ クールビズ次なる主役はテレワーク | ★ 「うちもやれ」社長ダメです真似だけじゃ |
| | ★ いきつけのカフェのソファが新オフィス |



テレワーク川柳
平成二十九年版入賞佳作百選

主催 ライフコース多様化とテレワーク部会
(一般社団法人日本テレワーク協会)
HPにて公募要領が掲載されています。

いきなりですが、以下の課題について、あなたの会社では、いくつチェックが付きますか?

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 人材が確保できない | <input type="checkbox"/> 6. 遠隔地でも営業網を拡大したい |
| <input type="checkbox"/> 2. 従業員が、家庭の事情で辞めたことがある | <input type="checkbox"/> 7. オフィスにかかるコストを削減したい |
| <input type="checkbox"/> 3. 社員を守るため通勤事故リスクを減らしたい | <input type="checkbox"/> 8. 従業員の満足度を高めたい |
| <input type="checkbox"/> 4. 営業活動での時間効率を高めたい | <input type="checkbox"/> 9. BCP対策が気になっている |
| <input type="checkbox"/> 5. 顧客から対応が遅いと言われたことがある | <input type="checkbox"/> 10. 情報漏洩が心配 |

いくつチェックが付きましたか?
ここにあげた課題は、実はテレワークという新しいワークスタイルを取り入れることで解決することをご存知でしたか?
テレワーク導入のご相談はテレワークセンター徳島がお受けいたします。まずはお問い合わせください。

テレワークセンター徳島

〒770-0053
徳島県徳島市南島田町2丁目25番地
(旧徳島テクノスクール理美容科棟2F)
TEL : 090-3187-9845
Open : 10 : 00~17 : 00
※土日祝除く
駐車場は建物(東側)に100台ほどあります。



編集後記

この季節はインフルエンザ対策に予防接種をする方も多いと思います。先日家族で接種に行きましたが、子どもは2回接種となっています。早く大人になりたいなーと子供がぼやきます(注射の時だけですが)。注射は痛いのでわたしもこればかりは大人でよかったなーと思いつつ「頑張れ」と励まします。大人でも子供でも注射は嫌なものです。昨日、特に感染力の強いインフルエンザの予防は手洗いが有効です。大人も子供もこの冬を元気に過ごすためには手洗いを特に心がけましょう。(安宅)